

「生涯学習」の入り口に立って

一昨年から今年の3月まで「昭島市民大学」の受講生となりました。会場は公民館。1年次は、総体的な講座の聴講。2年次はコース別に別れての学習です。私は「シニアの生涯学習」についてのテーマを選びました。

明年から団塊の世代が続々と地域に戻ってきます。定年後は年金でのんびりと趣味の生活——それもよいでしょう。でも人間はただ楽しいだけでなく、何か創造的なもの、あるいは他の人や社会に貢献できるものがあってこそ、より深い幸せや充足感を得られるものです。

「定年後は、Having でなく Being が大事」だと言われます。財産や貯金を持っていることも大事ですが、今、何をやっているかが問題。財布にいくら入っているかが問題ではない。心にどんな夢を描いているかが問題だということです。夢が、志が人を作る。大きな夢と志は大きな人生を作ります。

そこで私は、定年後もう一つ充足感がないと言う人には、もう一度勉強をすることをお勧めします。何歳になっても学び続けるところには、前向きで新鮮な人生がやってきます。向学心を抱き続けることは、精神の若さを失わない秘訣であり、ボケ防止にもなります。学ぶことに年齢はありません。生涯学習は自らへの再投資とも言えるでしょう。ありがたいことに市民大学はそんな機会を与えてくれます。

私は定年後、スペインのマラガ大学に1年間留学しました。各国から集った若いクラス仲間との交流は刺激的ですばらしく充実したものでした。そこで他のシニアの方にも是非、との思いもあって、帰国後、定年留学についての本を著しました。本年正月には、「シニアが元気になる企画」ということで、FM多摩がそれを取り上げていました。



伊能忠敬が天文学の本格的な勉強を始めたのは、隠居した52歳のときでした。人生50年といわれていた時代です。以来、72歳まで測量を続け、日本全国の地図を完成しました。「男は定年後、初めて『市民』になる。本当の自分になれる」「学校を終えてからの大人の“成長力”が大切」——市民大学で聞いた印象に残った言葉です。一方、仲間との語らいの中で、フツと自らの考え方を反省させられる言葉も耳に届きました。「市が提供してくれているこんな素晴らしい企画に、どうして参加者が少ないのだろう？」との私の発言に、ある人が言ったのです。

「『市民大学？ シニアになってまで勉強なんてまっぴら御免だワ。そんな硬い世界に行く人とはお付き合いしにくいワ』って言った友人もいたんですよ」

人生いろいろ。考え方も生き方もいろいろです。こちらの一方的な思いを押し付けてはいけない。いろんな考え方、いろんな人生があっいい。それで社会は成り立っている。でも、その中で、定年後をより充実させていく道の一つが「生涯学習」にあることは間違

いありません。



60 歳を過ぎてから、自分で自分を育てていく創造的な人生がスタートします。行政の対応も大切。地域に期待することも多いでしょう。でも大事なことは個人の生き方そのものです。市民大学はそうした姿勢を培う上で大変に有用だと思いました。

つつじが丘北シニアクラブ(つつじ会) 清水 武